WATAKYU SEIMOA

ワタキューグループ

こころレポート 2017

WATAKYU GROUP CSR Report

CONTENTS

1 読者の皆さまへ／編集方針／企業概要／財務データ

2 主要グループ会社紹介

3 社長メッセージ

5 ワタキューグループのCSR

6 行動憲章

7 CSR経営

9 **特集1：特別対談**
創業の地で育む町の人々との温かい交流

13 **特集2：事業を通じて少子高齢社会に取り組む**
サービス付き高齢者向け住宅
「トートイス京都桂川」が目指すもの

15 高齢者の生活支援と訓練を身近に
「ワタキューデイサービスセンター タイヨー重富店」
「暮らしの応援センター タイヨー重富店」

16 次世代育成のための働く環境整備を重視
「保育園 ワタキューキンダーハイム」
「ワタキュー保育園 北四番丁園」
「こころキッズ ワタキュー佐倉ルーム」

17 **ワタキューグループCSRトピックス**

読者の皆さまへ

「ワタキューグループ基本方針」を規範とする考え方や取り組みをわかりやすく報告するこの「こころレポート」は、皆さまからご意見をいただいて企業活動に反映させるためのコミュニケーションツールでもあります。

「こころレポート」の活用により、皆さまとのさらなる信頼関係の構築・維持に努め、持続可能な社会の実現に貢献できる企業グループを目指します。

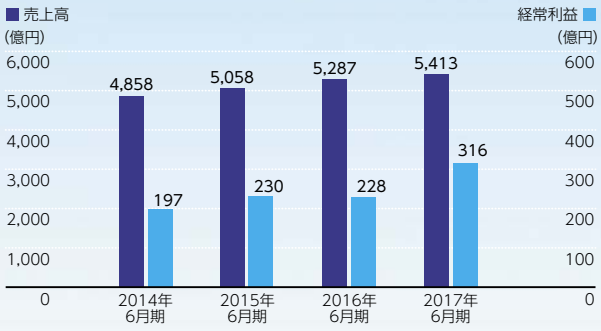
【編集方針】
「ワタキューグループ基本方針」に基づき、ステークホルダーごとの取り組みを報告する形で構成しています。
各章の基本的な考え方は不変であるため、2015年度版（2015年11月発行）の内容を引き続き掲載している部分があります。
※参考ガイドライン：環境報告ガイドライン（2012年版）

【報告範囲】
対象組織：ワタキューグループ
対象期間：2015年7月1日から2017年10月31日
（対象期間外の情報はその都度表記）
発行時期：2017年11月
（前回2015年11月／次回発行予定2019年11月）
詳細な情報は、ワタキューセイモアのホームページ
https://www.watakyu.co.jp/
またはワタキューグループのポータルサイト
http://www.watakyu.jp をご覧ください。

企業概要

会社名	ワタキューセイモア株式会社
創業	1872年10月
会社設立	1962年7月
資本金	4,850万円
取引銀行	三井住友銀行／南都銀行／みずほ銀行／三菱東京UFJ銀行　他
主要仕入先	伊藤忠商事（株）／倉敷紡績（株）／シキボウ（株）／ユニ・チャーム（株）／ナガイレーベン（株）／パラマウントベッド（株）／（株）トンボ／（株）東京洗染機械製作所／東都フォルダー工業（株）／三浦工業（株）　他
社員数	ワタキューグループ　89,497名（連結）（2017年6月現在）

財務データ（連結）



主要グループ会社紹介

ワタキューグループは、全国約90,000名のスタッフで、
医療・福祉・介護の分野を専門力と総合力でサポートします。

1998年、「感謝の気持ち」と「謙虚な姿勢」を忘れてはならないという思いで、「創業時の原点にたち還り」で始まる「基本方針」を作り、社是を「心」と定めました。社是「心」はワタキューグループ全社員の誇りでもあります。

ワタキューセイモア(株)

https://www.watakyu.co.jp/

- リネンサプライをはじめ設備備品サプライ、管理・請負業務、売店運営など、施設内の業務をトータルにサポート

古久根建設(株)

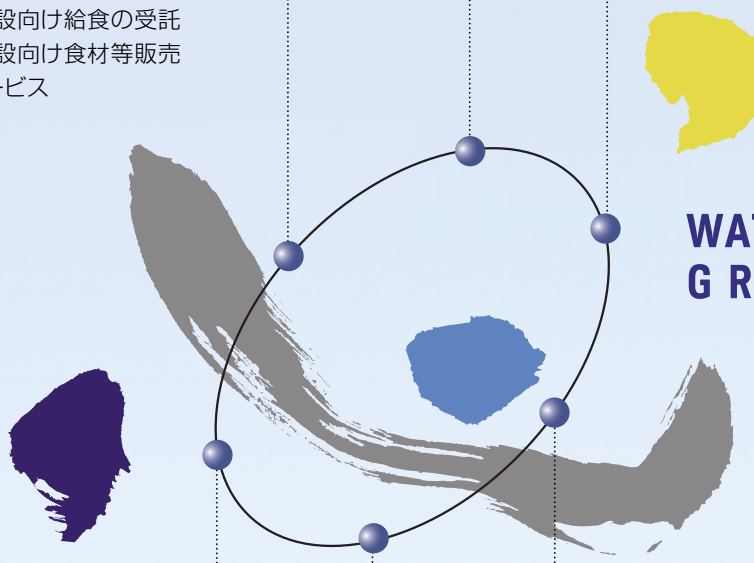
http://www.kokune.co.jp/

- 総合建設業
- 医療・福祉施設のコンサルティング

日清医療食品(株)

http://www.nifs.co.jp/

- 医療・福祉施設向け給食の受託
- 医療・福祉施設向け食材等販売
- 在宅配食サービス



WATAKYU GROUP

綿久リネン(株)

http://www.watakyu-linen.co.jp/

- ホテル・レストラン向けリネンサプライ
- 各種ユニフォーム類のリースおよび販売
- ホテル用備品類の販売

(株)メディカル・プラネット

http://corp.medicalplanet.co.jp/

- 医療・福祉業界向け専門職の人材紹介・派遣
- 看護助手・医事課業務の受託・派遣
- 医事精度調査・コンサルティング

(株)フロンティア

http://www.frontier-ph.com/

- 保険調剤薬局の運営
- 医薬品・医薬部外品・衛生用品などの販売
- 福祉用具のレンタルおよび販売
- 住宅の増改築、建て替えおよびリフォーム

グループ企業の総合力を発揮しながら、社会のニーズにきめ細かく応える事業展開を

1872（明治5）年に村田製綿所として創業以来、ワタキューグループは、医療、福祉、介護の分野に業容を拡大し、お客さまの健康で豊かな生活に寄与し、「生きる」を支えていくことを第一に掲げ、「感謝の気持ち」と「謙虚な姿勢」をもって幅広く社会に貢献していくことを目指しています。医療分野から始まり、世の中を少しでも「便利」にしようという信念から、社会が抱える多くの課題を解決するため、より便利で効率的なサービスを提案・提供することで、周辺に派生するさまざまな事業を創出してきました。

現在では、高齢者が住み慣れた土地で自分らしく生活していけるよう地域でサポートしていくという国の施策、「地域包括ケアシステム」の推進を背景に、病院や介護施設だけでなく、在宅でのケアの充実が急がれています。ワタキューグループでは、こうした状況にも柔軟に対応するべく、医療、福祉の分野で培ってきたノウハウを活用して、サービス付き高齢者向け住宅やデイサービスセンターなどの在宅介護関連事業にも取り組んでいます。全国各地での事業所展開により、長年にわたって信頼関係を築いてきた地域の方々と意見を交換し、何が必要とされているのかを見極め、地域の特性に合った必要とされるサービスを推進しています。

また、超高齢社会だけでなく、それを支える世代が抱える課題にも目を向けると、ワタキューグループが取り組むべき方向性も見えてきます。たとえば、当初は在宅の高齢者を対象としていた食事の宅配サービスは、働く若い世代などのニーズを捉え、さまざまな食の嗜好・志向に合わせた多彩なメニューを提供する「次世代に向けた食事サービス」へと発展しています。

こうした多様なニーズに対するきめ細かい対応を行うために、働く人材の質が大変重要であると考えています。ワタキューグループの新入社員は、独自の新入社員教育システムを実施する「一心館」で1年間の研修を経て、ワタキューイズムを身に付け、誠意をもって

【ワタキューグループ基本方針】

私達は創業時の原点にたち還り

- お客様には仕事をさせて頂いている
- 仕入先には売って頂いている
- 協力企業の方々には仕事をして頂いている
- 会社のみなさんには働いて頂いている

という感謝の気持ちと謙虚な姿勢で何事にも接する社風を醸成するとともに、
誰もが思いやりの心を持ち、互いに協力し、人に誇れる
立派な会社に勤めて良かったと思えるグループにする。
以上を礎としてワタキューグループの強固な石垣を構築するため社是を「心」とする。

仕事に取り組み、周囲から信頼される社会人として、グループ各社、日本各地の拠点へ配属されます。システム化できる業務は積極的にシステム化を進めて効率化を図りながら、社員は、現場にあるさまざまな課題をお客さまの立場になって考え、改善策を検討する役割を担っています。

ワタキューグループが行う医療、福祉、介護の分野は、どれも社会に対する責任、影響が大きく、困難にも真摯に向き合い、成長しながら継続をしていかなくてはならない事業です。リネンサプライ、給食、薬局、福祉用具レンタル、人材紹介・派遣、建物の設計・施工などの事業を行うグループ会社が情報を共有し、連携することで、新規参入の障壁が高い分野にも挑戦してきました。これまでに培ってきた皆さまからの多くの信頼と事業基盤を結集して、ワタキューグループならではの総合力を発揮しながら、これからの社会、人々の暮らしの課題に貢献してまいります。

代表取締役社長

村田清和

【ワタキューグループ経営理念】

我々は企業の存在理由は社会貢献にある事を基礎とし
企業を通じてすべての人びとの健康と豊かな生活に寄与するべく
技術機能を発揮し顧客の要望に誠意をもって応え
最高の品質サービスの提供を続け信頼を得て永遠に会社の発展を目指す
創業時の原点にたち還り時代の変化に対応しつつ
たゆまぬ努力と活動をもって経営基盤の確立と拡大を推進し
社会に報いると共に全社員の生活向上安定を計る事を理想とする

オンリーワン企業として、地球、地域、職場それぞれの環境向上に貢献します

企業活動を通じて社会に貢献すること――ワタキューグループの基本方針である「感謝の気持ち」と「謙虚な姿勢」を持って、身近な環境から地球全体の環境まで、社員一人ひとりが考え、行動し、医療と福祉に携わる企業として、持続可能な社会の実現に寄与していきます。

ワタキューセイモア行動憲章 | ワタキューセイモア株式会社

私たちは自らの企業使命を自覚し、お客さま、お取引先、役員・社員、業界、行政、地域社会、一般社会などのステークホルダーに対して、以下の行動憲章を定めこれを遵守することを宣言します。

お客さまに対する姿勢

- 私たちは、常にお客さまの視点からの事業を創造し、お客さまの立場で仕事に取り組んでいきます
- 私たちは、私たちの商品・サービスを利用してくださる方々へ安全と安心をお届けします
- 私たちは、お客さまのプライバシーを厳守します

お取引先に対する姿勢

- 私たちは、お取引先を大切なパートナーとして尊重します
- 私たちは、お取引先との契約に基づく対等な関係を維持します
- 私たちは、公正で適正な取引を行います

社員に対する姿勢

- 私たちは、性・年齢・役職・学歴等で分け隔てすることなくお互いを共に働く仲間として尊重します
- 私たちは、いずれの職場にあっても会社と仕事に誇りを持ち前向きに取り組みます
- 私たちは、一人ひとりが担うべき事項について責任を果たします

株主に対する姿勢

- 私たちは、積極的に情報を開示して、透明性の高い経営を目指します
- 私たちは、事業活動を通じて健全な利益を生み出します
- 私たちは、企業活動の説明責任を負い、その理解を促進します

業界に対する姿勢

- 私たちは、自由で透明、健全な市場競争を行います
- 私たちは、他社の正当な権利・財産を尊重し、自社の正当な権利・財産の保護に努めます
- 私たちは、高品質の商品・サービスを提供し、その必要性と利便性を訴求します

行政に対する姿勢

- 私たちは、関係法令の遵守および社会的な良識を備えた企業活動を進めます
- 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは、一切の関係を遮断します
- 私たちは、適正な会計基準に則り、会計報告に虚偽等がないように努めます

地域社会に対する姿勢

- 私たちは、その地域社会の文化や規範を尊重し、地域の発展に貢献します
- 私たちは、地域社会の一員として、地域行事等に参加します

一般社会に対する姿勢

- 私たちは、社員一人ひとりが社会貢献を考え行動します
- 私たちは、身近にある環境問題に対応し行動します
- 私たちは、循環型社会に適応した備品等を利用し、資源の保護に努めます

健全な企業経営を行うために

ワタキューグループの事業活動はさまざまな形で社会と関係しており、健全な企業経営を行うためには、お客さま、お取引先、社員をはじめとする数多くのステークホルダーの皆さまから信頼を得る取り組みを、積極的に展開することが重要と考えています。

コーポレートガバナンス

3つのテーマを据えて コーポレートガバナンス体制を充実させています

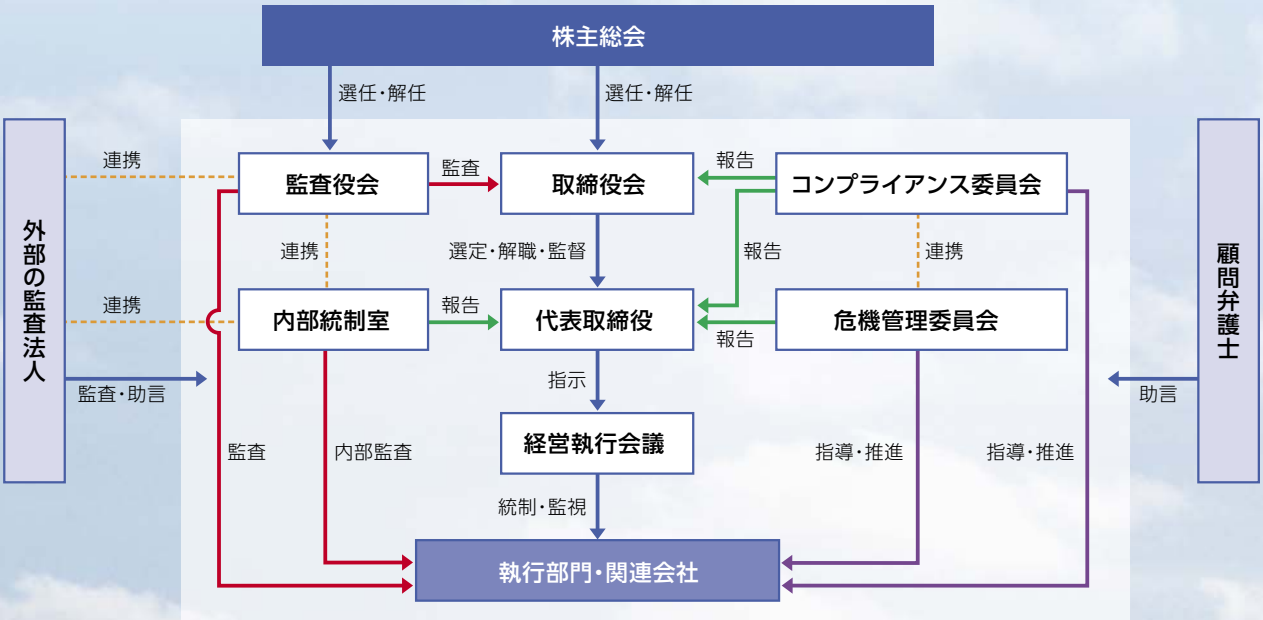
ワタキューセイモアは現在、コーポレートガバナンスとして、「企業経営の公正性・透明性の向上」「適正な意思決定プロセスの確立」「コンプライアンスの徹底」の3つをテーマに取り組みを進めています。

今後も社是「心」の基本方針に則り、ステークホルダーの皆さまから信頼され成長を続けるためにコーポレートガバナンスを充実させていきます。

監査には社外からも参画、執行状況を確認しています

弊社では、「監査役会（社外監査役3名を含む）」と「外部の監査法人」が監査を行い、加えて「内部統制室の内部監査部門」が業務監査により執行状況を確認しています。それぞれの監査人が連携をとり、監査を行うことで、企業の健全な経営と継続的な発展に不可欠な内部統制の構築、運用状況および有効性の点検・評価に積極的に取り組み、是正・改善を進めています。

コーポレートガバナンス体制図



リスク
マネジメント

適正業務がなされているか、権限を持った内部統制室が監査・調査を実施

弊社では、業務を適正に執行し、さらにはその体制を維持していくために、社長直轄の内部統制室を設置しています。適正な財務報告・社会法規や社内規程に基づく業務・公正な商慣習の遂行・基本方針の実践・経営方針に沿った業務などが主な監査や調査の対象です。監査・調査の結果は社長に報告し、これを受けた社長が自ら改善や是正などの指示を発することで、適正業務の確保を図っています。

危機管理マニュアルやセミナーでリスクマネジメント・啓発を実施 万が一のときは緊急対策本部を設置

弊社では、リスクマネジメントを健全経営のための大切な活動としてとらえています。危機管理委員会が中心となり、危機管理マニュアルの作成やグループ全体を対象とした危機管理セミナーの定期的な開催など、事象に対する啓発活動を行っています。万が一のときには、設置基準に基づいて社長が緊急対策本部を設置し、事務局を中心に発生した事象に適切に対応、問題の早期解決を図ります。「発生の予防」と「発生後の対応」の両面から取り組みを進めています。

コンプライアンス

社員研修などで遵法意識を徹底、重要な問題は委員会で審議

弊社では、社員研修やマニュアルの配布を行い、遵法意識を教育しています。さらに内部統制システムの稼働による調査や重要な問題を審議する社内コンプライアンス委員会の設置により、法令遵守の徹底を図っています。

情報
セキュリティ

内部情報共有システムやTV会議で情報セキュリティの周知を徹底

弊社では、情報セキュリティに関わる規程を作成し、ＩＴ統制を行っています。また、全社員がいつでもアクセスできる内部情報共有システムで公開しています。新たな技術やツールの導入に対応するとともに、必要に応じた規程の追加や見直しを行って随時更新しています。特に重要な事項については冊子の配布やＴＶ会議システムの使用などによる社員教育を実施し、内容の周知徹底を図っています。タブレット端末については、一元管理することでウイルス感染と情報の漏えい防止、双方の対策を実施しています。

特集1：特別対談

創業の地で育む町の人々との温かい交流

井手町とワタキューグループの今と未来を支えるために

代表取締役社長 村田 清和　　井手町長 汐見 明男 様

ワタキューグループの歴史は、1872（明治5）年、村田久七が京都府綴喜郡井手町に村田製綿所を創設したことに始まります。井手町は、京都府南山城平野のほぼ中央、木津川右岸に位置する緑豊かな町です。ワタキューグループは、全国で事業を展開する企業に成長した今もここに本社を置いて、町の人々との交流を大切にしており、人々から親しみを込めて「ワタキューさん」と呼ばれることに誇りを持っています。
井手町で長年にわたり町の発展に尽力されてきた汐見町長にご登場いただき、弊社代表取締役社長 村田清和と、地域と企業が共存し、発展していくことについて対談していただきました。

切り離しては語れない、町とワタキューグループの発展の歴史

村田　ワタキューグループの前身である村田製綿所が、ここ井手町で誕生してから145年になります。今のような医療関係の仕事をするようになったのは1962（昭和37）年、私が小学校3年生くらいのときですが、その後も井手町に本社を置いていますし、その敷地の中に私の自宅もあります。会社と自宅がある井手町との関係は、切っても切れない感じがします。今は取引先との関係もあって交通の便が良い京都市内に本部を置いていますが、井手町には弊社の本籍地、発祥の地ということで、特別な思いがあります。

汐見　昔から井手町と言えばワタキュー、ワタキューと言えば井手町。京都府の開庁が1868（慶応4・明治元）年ですが、ワタキューさんはその4年後にできています。京都府とあまり変わらない歴史があるんですね。今、若い人はみんな大都市に行くし、企業も大きくなれば本社ごと東京に行ってしまいます。大きい企業の5割以上が東京へ進出していると聞いています。ワタキューグループには約9万人の社員がいるそうですが、そこまで大きくなっても創業の地を大事にしていることに感心しています。自治体の会合などで全国各地の人と話す機会がありますが、ワタキューさんは全国展開をしているので、町の説明をする際に、ワタキューさんの本社があると言うとわかってもらいやすい。この町がワタキューさんの発祥の地であることを光栄に思っています。

村田　ありがとうございます。

汐見　ワタキューさんは、とても家族的な雰囲気がありますね。そういうものは会社が大きくなると消えていくのではと思いますが、温かい雰囲気が残っています。おそらく町の人々もそう思っているし、働いている人たちもそうでしょう。会社に行って社員の人を見ていると、礼儀正しいし、明るい、気持ちがいい。それを見るだけでしっかりとした会社だなあと思います。

村田　ありがたいお話です。これからもそう思っていただけるように、よりしっかりやっていきたいと思います。会社の基本方針でも「感謝の気持ち」、「謙虚な姿勢」をまず第一にしています。

汐見　そういうことを徹底したら、社員の人たちはかえって窮屈な感じがすると思いますが、そういう様子も見えない。そうならないのはなんでだろうか、と考えます。役場の職員もそうならないといけないと思いますね。

村田　現副会長である安道が、社長時代に、ワタキューグループ研修センター「一心館」を作りまして、社員の教育に力を入れています。特に新入社員には礼儀を一から教えています。礼儀、感謝、謙虚な姿勢は社会人としてのおつきあいの入り口ですので、重点を置いています。これがずいぶん身に付いているようです。

汐見　人との関係を築く上では大切なことですね。

「礼儀」と「感謝」が地域での良好な関係づくりの基本

村田　ワタキューグループは全国に展開していますが、どこに進出するときにも地域の方々にはお世話にならなければなりません。クリーニング業は水を使います。給水も、使った後の排水もあります。こうした基準はどこも大変厳しいので、町の人、水利権や漁業権を持っている人、用水路を管理する人たちにきちんと説明し、理解していただき、了解を得ないといけません。その交渉をするときからいろいろな方にお世話になっていますので、事業を始めた後も決して迷惑をかけられません。どこへ出ていくときも、まずは地元の人たちと良好な関係を築いていきたいと思っています。

汐見　企業は何をするにも地元の協力なしではできないというわけですね。企業と自治体は、お互い守るものは守りながら、理解してやっていくことが大事だと思います。

それにしても、これだけ大きい企業が創業の地を忘れずにいるということはなかなかできることではないと思います。先祖を大切にするというのは大事なことですが、そういう気持ちが社員にも浸透しているから、よそへ行っても地元と同じように接することができるわけですね。

それから、ワタキューさんは、環境保全活動にも力を入れていて、井手町にある大正池森林保全支援活動にも協力していただいています。

村田　大正池での活動は、今年で10年目になります。年に2回、100人を超える社員が集まって、地域の方々と一緒になって間伐や植樹をしています。大正池は、1953（昭和28）年夏に大水害にあって、たくさんの方が亡くなられました。植樹をすれば、苗木は小さいけれどいずれ根を張って地盤を固めるので、池が崩れることを防げればという思いもあり、地域の皆さまとともに始めました。地道な活動ですが、災害防止だけでなく、地球温暖化防止など環境面でも地元のために貢献ができるのであれば続けていきたい。私もこちらへ戻ってきてからは参加しています。全体活動以外の時も、CSR推進実行委員が活動をフォローしていますので、年2回の全体活動も続けて行うことができています。

汐見　井手町が環境のために取り組んでいるのは、CO_2の削減、地球規模での大きな課題ですね。少しずつでもみんなが取り組まなくてはいけない。2009（平成21）年からすべての公共施設の蛍光灯をLEDに交換する事業を行っていますし、町内の街灯、公園や道路の照明についても、順次進めています。また、役場、学校などの屋上に太陽光パネルを設置しています。全体から言えば効果はわずかですが、地道にやっていくことが大事だと思います。

私は2003（平成15）年、3期目の選挙のときに清流やきれいな空気を守るということを公約に掲げたので、当選後に「豊かな緑と清流を守る検討委員会」を立ち上げました。全体からみると、いろいろな循環をきちんと作ることが大切ですので、さまざまな角度から井手町の自然を守っていこうと考えました。ちょうどそのころ京都モデルフォレスト協会※が設立されて、ワタキューさんにもいろ

いろ協力いただいています。こうした活動に企業が積極的に関わってくれることは、今後につながるのでありがたく思っています。

次世代に向けて、ということでは、中学生の面接マナー講習も、ワタキューさんにお願いしていますね。

地域の課題を共有して、ともに未来を歩む

村田　面接マナー講習は、井手町立泉ヶ丘中学校の校長先生から、やってもらえないかと言われたことがきっかけでした。最近の高校受験は面接を重視するので、礼儀やマナーをしっかり身に付けないといけないのですが、教員も数年で交代するのでなかなか継続して教えられないということでした。2012（平成24）年から採用担当社員が泉ヶ丘中学校にて講習を行っています。

汐見　面接のマナーや礼儀は、高校受験だけではなく、社会に出ても大切なことです。次世代を担う中学生にそうしたことを教えていただくことは、大人になっても必ず役に立つと思います。

大人になると井手町から巣立っていくわけですが、井手町では、人口が1978（昭和53）年をピークに減少していまして、これを食い止めることが長年の課題になっています。結婚や就職で転出するのは仕方がないとして、それ以外では、住むところがない（宅地）、交通の便が悪い、働くところがないというのが大きな要因でありまして、これは町の努力でどうにかなるのではないかと思いました。現在では、企業誘致、住宅地の開発に力を入れています。JR奈良線の複線化や国道24号バイパスなどの整備が順調に進み、外からも人や企業が入ってくれば、将来にとっての明るい兆しになると思います。

町としてもいろいろ取り組んでいるので、ワタキューさんにも今まで以上に、地元を大事にしてもらいたいと思いますし、今やっている取り組みを引き続きやってもらえるようお願いします。環境もそうですし、少子高齢化対策ですとか福祉などの何か新しい取り組み、みんなが関心を持つようなことをお考えになる場合は、ぜひ井手町でもやってほしいですね。

村田　弊社は今後も、この創業の地で、皆さまとともにあり続けると思います。ただ町を歩いていても子どもの姿が減っていますし、このままいったらどうなるのかと心配になります。

汐見　いろいろなことが東京に集中しすぎることも問題だと思います。村田社長にはぜひ井手町に引き続き住んでいただきたい。このあたりはまだまだ昔の習慣やしきたりが残っていて、それが窮屈だという人もいます。だいぶ簡略化されてきてはいますが、そういう昔ながらの風習が残っているところも、この町の人たちが持っている道徳感につながっているのではないでしょうか。変えるべきところは変えていきながら、良いところは残し、受け継いでいってほしいですね。

村田　これからも井手町や地域の皆さまとともに手を携えて、お互いに末永く発展していきたいと思います。

※京都モデルフォレスト協会：モデルフォレスト運動を推進する日本で初めての団体として2006（平成18）年に発足。森林から恵みを受けるすべての府民の参画と協働により、府民共有の貴重な財産である京都の森林を守り育てるためにさまざまな取り組みを行う。

井手町長
汐見 明男　様

1995年8月から井手町長(現職)、同年8月より木津川右岸宇治木津線道路新設促進協議会会長(現在)。1997年12月からJR奈良線複線化促進協議会会長(現在)、2006年1月から京都府町村会長(現在)、同年7月から京都府道路協会会長(現在)、2017年7月から全国町村会政務調査会財政委員会委員長(現在)。

代表取締役社長
村田 清和

1976年3月 綿久寝具株式会社(現ワタキューセイモア株式会社)入社。1981年9月同社取締役就任。1997年8月ワタキューセイモア株式会社取締役副社長、2001年2月株式会社ハートウェル(現株式会社フロンティア)代表取締役社長、2005年日清医療食品株式会社代表取締役社長、2016年9月ワタキューセイモア株式会社代表取締役社長(現任)。

特集2：事業を通じて少子高齢社会に取り組む

ワタキューグループは、医療・福祉の現場で必要とされるさまざまな事業を展開してきました。ここで培ってきたノウハウをもとに、新しいサービスの提供で、社会の課題に取り組んでいきたいと考えています。

サービス付き高齢者向け住宅

「トートイス京都桂川」が目指すもの

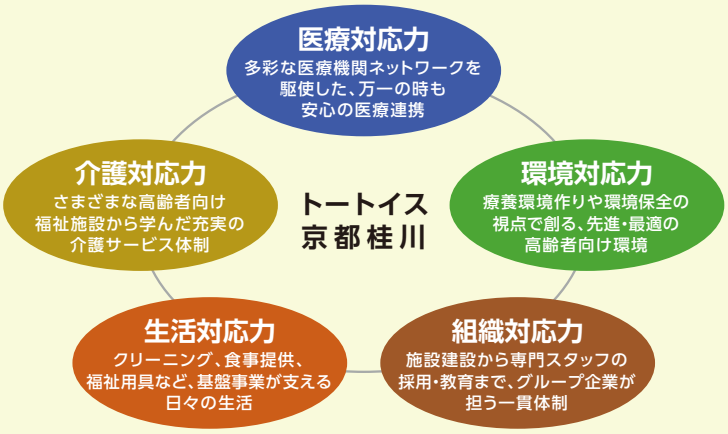
建物のデザインも落ちついた雰囲気

2017年4月1日、京都市西京区に、サービス付き高齢者向け住宅「トートイス京都桂川」を開設しました。この施設は、ワタキューグループが担ってきた「衣食住」にかかるサービスに、取引先近隣病院さまとの連携による「医」も加え、医療、介護、環境、生活、そして組織としての対応まで多彩な対応力で、高齢者の皆さまの安心な暮らしを支えます。

日本の社会課題
「超高齢社会」対応の一つの答え

2025年の75歳以上人口は約2,179万人、全国のおよそ5人に1人が75歳以上の高齢者で、さらに2060年には65歳以上人口が約2.5人に1人（約40%）になると言われています（厚生労働白書平成28年版）。老人福祉法施行、介護保険制度導入以降、高齢者に対する介護・福祉の「施設」の拡充が図られてきました。その一方で、施設の利用を必要としない高齢者が、独居だから、あるいは夫婦二人だけで面倒を見る親族がいないなどを理由に民間賃貸住宅を利用できないといった「住まい」の問題も聞かれるようになりました。

「高齢者専用賃貸住宅（高専賃）」制度や各自治体独自の施策などで、高齢者の住まいを確保する取り組みが進む中、2011年10月に「サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）」の登録制度が始まりました。サ高住は、室内をバリアフリー仕様にした高齢者向けの「賃貸住宅」で、「安否確認」と「生活相談」が事業者に義務づけられています。介護を要しない、または比較的軽いケアで済む高齢者が、自分の住居に住み続けることは困難になっても、やはり住み慣れた地域で暮らしていきたいという「住まい」の希望を実現する「地域包括ケアシステム」の構築の一環です。



- **ワタキューセイモア**
  寝具レンタル、洗濯、家具、紙おむつなど
- **日清医療食品**
  食事提供
- **フロンティア**
  福祉用具のレンタル・販売
- **メディカル・プラネット**
  職員研修、人材紹介
- **古久根建設**
  設計、施工

ワタキューグループだからできる複合サービス、地域連携

「トートイス京都桂川」は、設計・施工を医療福祉施設建設のノウハウをもつ古久根建設が担当しました。居室やトイレに設置された救急コールや24時間居室を見守るセンサーなどの安心設備の充実。そして単にバリアフリーであればよい、ということではなく、地元産ひのきなどの木材を使用したり、落ち着いた色調やゆったりとした空間デザインを採用するなど、快適で上質な住まいを演出しています。

居住される方の自由、意思を最大限尊重し、ご希望に合わせて、生活相談、生活支援や食事などさまざまなサービスを提供。いざというときも安心な医療機関との連携、さらに館内に併設する「ウェルスタイル京都桂川」が介護サービスも提供できます。医療・福祉の分野で、多岐にわたるサービスの提供を行ってきたワタキューグループだからこその多彩な対応力で、暮らしの安心を支えています。

また、近隣の方々との交流にも力を入れ、自治体やPTAの集まり、野球チームの会議など地域の拠点としての「場」の提供に加えて、地域交流サロンでは各種イベントなども行っています。

この新しいモデル事業である「トートイス京都桂川」で得たノウハウを、同様の事業展開を考える福祉・医療施設さまにもコンサルティングしていくことで、超高齢社会における住宅問題に取り組んでいきたいと考えています。

概要

「トートイス京都桂川」

住　　所：京都府京都市西京区下津林南大般若町41
交　　通：阪急京都線 桂駅またはJR京都線 桂川駅から徒歩18分
京都市営バス・京阪京都交通　下津林大般若町バス停から徒歩1分
総　戸　数：40戸
併設事業所：ウェルスタイル京都桂川
（訪問看護事業所・訪問介護事業所・通所介護事業所・居宅介護支援事業所）

フロンティアは、サービス付き高齢者向け住宅「トートイス拓北」（北海道札幌市）「トートイス前橋」（群馬県前橋市）「トートイス前橋2号館」（同）及び併設事業所を展開しています。

車いすでも楽々アクセスできるエントランスへのアプローチ

広々とした食堂ラウンジ

機能的で明るい居室

地域交流サロンではイベントを企画

地元産ひのきが使われているゲストルーム

日当たり良好なテラス

高齢者の生活支援と訓練を身近に

「ワタキューデイサービスセンター タイヨー重富店」「暮らしの応援センター タイヨー重富店」

スーパーマーケットの中という、気軽に立ち寄っていただける場所

福祉用具の販売も行っている

「生活相談窓口・生活支援サービス」のモデル事業として、スーパーマーケットの中に、「デイサービスセンター」と「暮らしの応援センター」を開設。住み慣れたよく知る場所での健康な毎日のため、介護よりも「支援」を大切にした取り組みです。

地元の生活に密着している「スーパータイヨー」との連携

2016年4月、スーパータイヨー重富店（鹿児島県姶良市）の中に、「ワタキューデイサービスセンター」「暮らしの応援センター」を開設しました。タイヨー重富店は、総合スーパーマーケットを中心に、鹿児島県・宮崎県で92店舗を展開する、株式会社タイヨーの店舗の一つです。

「デイサービスセンター」では、生活の一部でありリハビリにも非常に効果的な「買い物」を、機能訓練の一環と位置付けています。自身の選択で毎日の暮らしに必要な買い物をすることは、自立支援や認知症予防の効果も期待できます。介護保険制度の理念である「地域の高齢者の介護予防・要介護者の介護の重篤化の予防」を重視し、自分らしく生きることのサポートを目指しています。

「暮らしの応援センター」では、生活相談員が店舗に常駐し、買い物ついでに立ち寄られる高齢者の方やご家族に、寝具のレンタルや、福祉用具の販売、宅配食（日清医療食品の「食宅便」）の紹介、介護保険相談や福祉施設の紹介など、介護保険外の方へのサービスとして、情報提供や暮らしのサポートを行っています。

概要

住　所：鹿児島県姶良市平松3675-1（タイヨー重富店内）

「ワタキューデイサービスセンター」（介護保険事業）
食事や入浴からお買い物訓練まで、きめ細かな介護サービスを提供しています。

定　員：20名（1日あたり）
内　容：送迎・食事・機能訓練・入浴・レクリエーションほか
浴　室：介護浴槽／一般浴槽

「暮らしの応援センター」（介護保険サービス外）
- **情報提供サービス**
  介護保険やサービスのことはもちろん、施設選びまで、お気軽にご相談いただけます。
- **暮らしサポート**
  ワタキューセイモアのネットワークを活かした多彩なモノやサービスを揃えています。

次世代育成のための働く環境整備を重視

「保育園 ワタキューキンダーハイム」（認可保育園）
「ワタキュー保育園 北四番丁園」（事業所内保育 小規模A型）
「こころキッズ ワタキュー佐倉ルーム」（企業主導型保育事業）

ワタキューキンダーハイム

子どもたちが余裕をもって過ごせるスペースを確保

JR仙台駅東口より徒歩5分の便利なアクセス

ワタキュー保育園　北四番丁園

グループ社員を対象とし、地域の方もご利用可能

給食は日清医療食品が担当

こころキッズ ワタキュー佐倉ルーム

佐倉工場内に開設

工場敷地内の園庭で遊ぶ子どもたち

少子高齢化が進む中、働きながら子育てする方々を支えるサービスにも、ワタキューグループが培ってきた医療・福祉分野でのノウハウが活かされています。

社員が安心して働ける環境を、企業が作る時代に

ワタキューグループが培ってきた医療・福祉分野での事業のノウハウを、高齢者の課題解決のためだけではなく、働きながら子育てをする方々への支援にも活用しています。

保育園の待機児童の解消が、行政の大きな課題となっており、国や経済団体が保育システムを多様化することで、利用者の利便性を高め、待機児童数を減らすための施策を進めています。

この課題に取り組むため、1995年、駅型保育モデル事業として仙台市宮城野区に「駅型保育クラブ ワタキューキンダーハイム」を開設、2006年4月からは、せんだい保育室B型「保育園 ワタキューキンダーハイム」、2011年4月には、認可保育園となりました。仙台駅から徒歩圏にあり、共働き世帯を支える施設として活用されています。

また、2015年度制定の「子ども・子育て支援新制度」によって新しく生まれた、市町村の認可を受けて行う地域型保育事業として、2016年4月、仙台市青葉区にワタキューグループ社員を対象とした「ワタキュー保育園 北四番丁園」を開設。車で10分程度の距離にある「ワタキューキンダーハイム」との連携も行い、グループ社員のほか、地域のお子さんにも活用をいただいています。

さらに、同年7月には企業主導型保育事業を導入した、「こころキッズ ワタキュー佐倉ルーム」を千葉県佐倉市の佐倉工場内に開設しました。

それぞれの保育園では、給食は日清医療食品、寝具類はワタキューセイモアなど、グループの力を合わせて運営しています。社員の働きやすい環境整備、ワークライフバランス施策を推進するため、現在複数の拠点にて、企業主導型保育所の開設を進めています。

ワタキューグループCSRトピックス

ワタキューグループは、地域社会や環境などの社会課題の解決に向けて、
さまざまな取り組みを進めています。

地域社会　安全

佐倉工場は、地域活性化に貢献する、働く人にやさしい工場です

2016年7月、千葉県をはじめとする南関東地区の新たな生産拠点として、佐倉工場が稼働を開始しました。就業人員は約160名。地元での雇用創出はもちろん、企業立地促進、生産年齢人口の流入を重要施策としている佐倉市への派生経済効果も含め、地域への貢献が期待されています。

佐倉工場は「人にやさしい工場」を目標に、古久根建設の設計・施工で建設が進められました。安全柵、キーロック、パイロットランプの設置、無人ラインのモニターでの監視など、基本的な安全のための設備を網羅しています。洗剤原液の自動投入システム、バッチワッシャー(洗濯脱水機)はパススルー式全自動を採用するなど、安全確保と省力化を目的とした新しい設備の導入も行いました。

また、天井近くにエアシューターを配管、全乾燥品をエアシューターにて仕上げ場へ搬送することで、省スペースと効率化に。換気量を多く、換気方向を一方通行にすることで、風を感じられる涼しい工場に。さらに工場内に保育施設を設置、畳敷きの休憩スペースなど、働きやすい環境を整備しています。

環境面への配慮としては、天然ガスボイラの採用をはじめ、工場内全ての洗濯排水熱を回収するシステム(連続洗濯機からの排水熱で給水を温め、ボイラエネルギーコストを削減)、エネルギー効率の高いガス式全乾燥機などの導入により、省エネルギーを図っています。排水処理施設には、急速濾過装置、活性炭吸着装置(水質に問題ないため未使用)を設置して基準を厳守。将来の排水基準にも対応可能となっています。

佐倉工業団地連絡協議会に加盟し、会合や清掃活動に参加するなど、地域とのコミュニケーションも積極的に行い、快適で安全な工場で、働く人に魅力のある職場とし、人材の確保にもつなげていきたいと考えています。

使用した水は可能な限り再生、再利用します。排水も定められた基準を厳守しています

最新の省エネ型ボイラ

広く明るい食堂

概要

住　　所： 千葉県佐倉市太田2464-1
構　　造： 鉄骨造 地上4階建
延べ床面積： 約15,175㎡
生産処理能力： 最大40t／日(病院リネン25t、ホテルリネン15t)

社会　品質

食べる楽しみをいつまでも提供するために、安全に配慮した介護食を追及しています

日清医療食品は、噛む・飲み込むことが困難な方々にも、食事を楽しんでいただけるよう「ムース食」を2004年に開発。また、2016年には刻まない介護食「モバイルプラス やわら御膳」を開発しました。調理法の工夫や各種測定による数値化により、安全に配慮された“刻まない”高齢者食「黒田式ソフト食」の理論を用い、安全かつ見た目に美しく、味もおいしい料理が提供できる、新しい介護食です。

近年、高齢者向けの食事は「ユニバーサルデザインフード」として注目を集めており、農林水産省は食事サービスも含めた介護食品の潜在的ニーズを2.8兆円と試算しています。その中で2015年12月、アンテナショップ&レストラン「nu dish Mousse Deli & Café」を東京・銀座にオープン。2016年2月には、ノルウェー王国から食品調理技術研究機関の研究者とその関係者が来店され、「ムース食」のアレンジメニューや介護食の試食会を行いました。

「きざみ食」（左）と「モバイルプラス やわら御膳」（右）の比較
とんかつの場合

東京・銀座四丁目にある「nu dish Mousse Deli & Café」

社会　品質

セントラルキッチンで、効率的に安定した品質の食事サービスを提供

ヘルスケアフードファクトリー亀岡

概要

住　　所：京都府亀岡市大井町並河亀ヶ渕48,46

「ヘルスケアフードサービスセンター京都」
建物面積：1,980㎡
製 造 数：10,000食／日

「ヘルスケアフードファクトリー亀岡」（2017年12月稼働予定）
建物面積：15,200㎡
製 造 数：100,000食／日

2015年10月、京都府亀岡市にて、日清医療食品では5カ所目となるセントラルキッチン「ヘルスケアフードサービスセンター京都」が稼働を開始しました。従来の施設内調理から集中調理へ移行により、少子高齢社会における労働力不足に対応し、全国のセントラルキッチンの献立を共有することで、安定した品質を確保し、不測の事態での供給力の確保や品質の恒久維持に努めます。

2017年8月には、同センターに隣接して「ヘルスケアフードファクトリー亀岡」が竣工。同社ブランド「モバイルプラス」の1日10万食の製造を見込む、国内最大規模のセントラルキッチンです。「モバイルプラス」はクックチル方式（調理加熱後、急速冷却し、チルド帯で保存・配送。提供時に再加熱する調理方法）により調理し、契約先へ配送する食事サービスです。献立作成・発注・検収・下処理・調理などはセントラルキッチンが担い、病院さま、施設さまの厨房では、再加熱や和えるなどの簡単調理のみ。少ない労働力で、医療・福祉版の常食・全粥・各種禁止食、さらには行事食など多彩なニーズに合わせた食事提供が可能です。

新工場はビジネスモデル転換のフラッグシップと位置づけ、無人配送車・コンベア・自動倉庫などの最新設備を導入、工程の自動化・ライン化を図ることで、徹底した効率化・省人化を追求し、働きやすさや快適性にも配慮しています。2017年12月の本格稼働に向けて、近隣地域からの採用を進めるとともに、災害時の施設利用の協定を締結するなど、地域への貢献にも取り組んでいます。

環境

地球温暖化対策・自然環境保全に取り組んでいます

環境負荷を低減すべく設備更新を進めている沖縄綿久寝具

自然環境に配慮した事業活動に取り組む

近隣の畑へ農業用水を提供

沖縄綿久寝具(宜野湾市)は2016年2月、主力工場である中城工場のボイラ用燃料をA重油からLNG(液化天然ガス)に切り替えました。沖縄電力がLNGを燃料とする吉の浦火力発電所を整備したことから、沖縄電力グループのグループ会社プログレッシブエナジーより、発電所から約1.3kmの導管を敷設しての供給が可能となりました。ボイラの更新によるCO_2削減量は年間約1,800t(12万8,500本の杉の木が吸収する量に相当)。国が認証する「J-クレジット制度」に参加し、J-クレジット創出者となりました。クレジットは県内の事業で排出されるCO_2のカーボンオフセットに利用されることで、観光立県を目指す沖縄県の温暖化対策・自然環境保全に貢献するとともに、離島観光振興をはじめとした沖縄振興につながると考えています。

また、中城工場で使用した水はリサイクル水として敷地内緑地帯への散水、車両の洗車、トイレなどに利用するほか、近隣の畑や、マンゴーなどのビニールハウス栽培の農業用水として、無償提供を行っています。近隣で実施されている清掃活動への参加、工場周辺の清掃、村道の草刈りなど、地域の環境保全にも積極的に取り組んでいます。

環境

創業地井手町での「大正池森林保全支援活動」は10年目を迎えました

2008年に第1回の活動を開始、翌2009年の京都府・井手町・京都モデルフォレスト協会・井手町豊かな緑と清流を守る協議会との五者協定「森林の利用保全に関する協定」の締結を経て継続してきた大正池森林保全支援活動。2017年10月14日の活動で、全体活動としては第18回目を迎えました。グループ社員と家族、自治体やNPO法人の皆さまとともに、近年では毎回150名前後の規模で実施しています。

北海道支店では、おたる自然の村周辺の「ワタキューの森」にて、2014年9月より森林整備活動を開始しています。地元の森林組合のご協力もいただき、2017年9月9日には、第4回の活動を実施しました。現地では景観や保全状態の向上など、活動の効果が見られるようになってきています。今後も地域の環境保全に継続して取り組んでいきます。

第18回大正池森林保全支援活動は、約150名が参加しました

地域社会　環境

地域クリーン活動の取り組みが評価され、表彰を受けました

2017年10月12日 京都駅前広場での「地域防犯功労団体表彰」式典の様子

ワタキューセイモアでは、2007年7月よりCSR活動の一環として、周辺地域の環境美化、近隣住民の皆さまとのコミュニケーションを図るという主旨のもと、全国の拠点で地域クリーン活動を実施しています。定期的に事務所や工場周辺の清掃活動を行うほか、自治会やボランティア団体などが主催の清掃活動や草刈りに参加するなど、積極的に取り組んでいます。

2017年10月12日、「世界一安心安全・おもてなしのまち京都」運動プログラムに基づき京都府下京警察署が主催する、「おもてなしのまち下京区 安心安全強化活動～2017秋の陣～広報啓発活動」において、本部社員による10年間の活動、回収ゴミ281.02kg、延べ参加人数1,113名の実績が評価され、「地域防犯功労団体」として感謝状を受けました。今後も地域社会の一員としてのこの活動を継続し、地域への貢献を目指します。

地域社会　安全

地域に密着する企業だからこそ、地域行政機関との連携を大事にしています

亀岡市総合防災訓練にてヘリコプターを用いての空輸訓練

亀岡警察署署長とヘルスケアフードファクトリー亀岡工場長との調印式の様子

日清医療食品は、2017年8月26日、「平成29年度 亀岡市総合防災訓練」に参加、緊急物資輸送としてヘリコプターを活用して濃厚流動食の空輸訓練を実施しました。展示ブースでは、空輸訓練で搬送した濃厚流動食の地域の皆さまへの配布や、過去の災害時の対応をパネルにて展示しました。

また、10月17日、京都府警察亀岡警察署と、「災害時における施設等使用に関する協定」を締結しました。災害時に亀岡署の庁舎が被災するなど、機能が維持できなくなった場合に、「ヘルスケアフードファクトリー亀岡」（2017年8月竣工、12月稼働予定）の会議室および社員食堂の一部と社員駐車場を代替施設として使用する、というものです。同工場は駐車場にヘリポートを設置、壁を地面に直接埋め込むなどの耐震化を施しています。

日清医療食品は、災害対応の4つの柱として、①非常用備蓄倉庫の設置 ②災害時献立の考案 ③ヘリコプター運用会社との契約締結 ④通信手段の強化 を推進し、体制を整えています。地域の皆さまの安心・安全への貢献とともに、日本の医療・福祉を支える一員として、さまざまな防災・災害対策にこれからも積極的に取り組んでいきます。

社会　品質

安心・安全な材料を安定的に確保することは、品質保証の第一歩です

日清医療食品は、パプリカなどの農産物の企画・生産・販売を手掛けるリッチフィールド栗原(宮城県)に出資しています。2015年8月には、日清医療食品のグループ会社である米穀など卸販売のアグリック(熊本県)が、米・野菜生産を行う農事組合法人 結いの里浦方(熊本県)に出資しました。これらは、安心・安全、安定的に食事サービスの提供を行うために、自社の品質管理のもと、生産者の顔が見える仕入れ体制を構築する取り組みの一環です。

食事サービスの提供事業者として、農業生産現場との協働は今後ますます重要となっていくと考えます。日本の農業は、従事者の高齢化、次世代の担い手不足、栽培技術の継承の停滞など、さまざまな課題があります。地域の生産者との協力体制を築きながら、安心・安全・継続的な食事サービスの提供を行うとともに、国内の農業や地域社会の活性化に貢献していくことを目指しています。

最先端の農業技術を導入し、パプリカを年間約300トン生産
(リッチフィールド栗原)

産学連携

現場での経験に基づく、説得力のある情報を提供する場を設けています

2017年10月7日、トラストシティカンファレンス・仙台にて、「ワタキューセイモア感染管理セミナー in 仙台」を開催しました。ワタキューセイモア主催によるセミナーは、2014年沖縄開催の第1回から毎年継続、今回は4回目の開催です。2回目の開催より、日本医療機器学会滅菌技師／士の単位(5単位)の取得講座として認定をいただいています。プログラムは、医療施設の廃棄物処理、環境整備／清掃をテーマにしたシンポジウム(4演題)と、医科大学や病院の先生などを講師に招いた講演を3つ行いました。感染管理は病院さま施設さまにとって非常に関心が高いテーマであり、現場で活用できる内容も多いと毎回好評をいただいています。

また、医療、滅菌・感染管理などをテーマとした、学会や研究会、病院職員向け勉強会などでの社員の発表活動も、昨年度は20件と積極的に行っています。社内での認知も進み、社員のモチベーションアップ、知識・業務水準向上につながっています。

ワタキューセイモア感染管理セミナー in 仙台　の様子

リネンサプライ業・請負業務で得た経験や知識は、サービスを提供する病院さま施設さまへ情報提供することが必要であり、協働(共同研究)したことは、医療全体の質向上へつながる、という理念のもと、これまでの取り組みの質をあげて継続して行い、お客さまと一緒に行う業務改善や開発・研究などにも注力していきたいと考えています。

社員

古久根建設が進める健康経営 社員の健康は会社の財産

健康経営とは、その企業の経営理念に基づき、社員の健康保持、健康増進、そしてそれを実現する職場環境の整備を経営の一環として行うことです。

少子高齢化が進む中、企業を支える人材の確保は、その企業が持続可能な事業活動を行っていくためには必須の要件となってきます。そこで古久根建設では、2016年7月、「古久根建設は、社員の健康第一の風土醸成を通じて経営を推進し、社員一人ひとりが心身とも健康でいきいきと働ける職場づくりに努めます」と、鈴木眞一社長が健康経営宣言を行いました。

2017年9月には東京の健保連より「銀の認定書」を受けました。第77期の健康経営計画に基づき、健康診断100%受診、特定保険指導、40歳以上の脳ドック完全受診など具体的な目標を掲げて健康経営を推進しています。「休みをとろう!プロジェクト」とともにPDCAサイクルを回して、継続した健康づくりを目指しています。

基準の達成が認められた企業に交付される「銀の認定証」と、休みをとろう!プロジェクトカレンダー

次世代

世界におけるソフトテニス競技の普及、スポーツ支援に注力していきます

2017年10月、えひめ国体で京都チームが準優勝

2017年5月開催のWATAKYU-CUPポーランド大会

2017年10月、えひめ国体 ソフトテニス 成年女子の部で、選手全員がワタキューセイモアソフトテニス部のメンバーである京都チームが準優勝を収めました。ソフトテニス部は1995年創設、現在は男・女ともに日本最高峰の「日本リーグ」に所属しています。ジュニア向けの講習会や、国内トップクラスの選手を集めた日本実業団選抜選手権大会「京冬カップ」の開催、世界10ヵ国以上から選手が参加する国際大会、「WATAKYU-CUP」を主催するなど、競技の振興に力を入れています。2017年のWATAKYU-CUPは、ポーランド(5月)・ドイツ(5月)・ブラジル(9月)にて開催しました。

2016年6月、ワタキューセイモア 代表取締役副会長安道光二は、公益財団法人日本ソフトテニス連盟会長に就任しました。日本発祥のソフトテニス競技は、子どもから高齢者まで幅広い世代で愛好される生涯スポーツとしての側面を持っています。国内のみならず、世界での普及・発展に、今後も積極的に活動していきます。

このほかにも、地域でのスポーツ大会への協賛や、各種競技や障がい者スポーツに個人で取り組み、世界レベルで好成績を収める社員を応援するなど、スポーツ支援に取り組んでいます。

ワタキューセイモア株式会社

〒600-8416
京都府京都市下京区烏丸通高辻下ル薬師前町707
烏丸シティ・コアビル

「ワタキューセイモア」の社名・ロゴの由来

「ワタ」は創業時の製綿業、
「キュー」は創業者・村田久七の名前を由来とし、
セイモアの「セイ」は
生活・人生・生命の「生」、
清潔・清純・清秀の「清」、
誠実・誠意の「誠」を意味しており、
これらをより広く、多くの人に提供していく
意志を込めた「モア」と合わせています。

コーポレートマークは、
生命を育む「青い地球」をイメージし、
「ヒトへの共感」「先進的な創造性」「広域的な発展性」
というメッセージを、躍動するWの文字と
それを取り巻く色彩に託しています。

https://www.watakyu.co.jp/

お問い合せ先：ワタキューセイモア株式会社 広報室
e-mail：kouhou@watakyu.co.jp
CSR 推進実行委員会
e-mail：csr@watakyu.co.jp

Waterless Printing Naturally
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C014687
VEGETABLE OIL INK

2017.11